

近畿地方整備局殿  
淀川水系流域委員会殿

2004. 6. 11

佐川克弘

大阪府営水道の水資源計画について

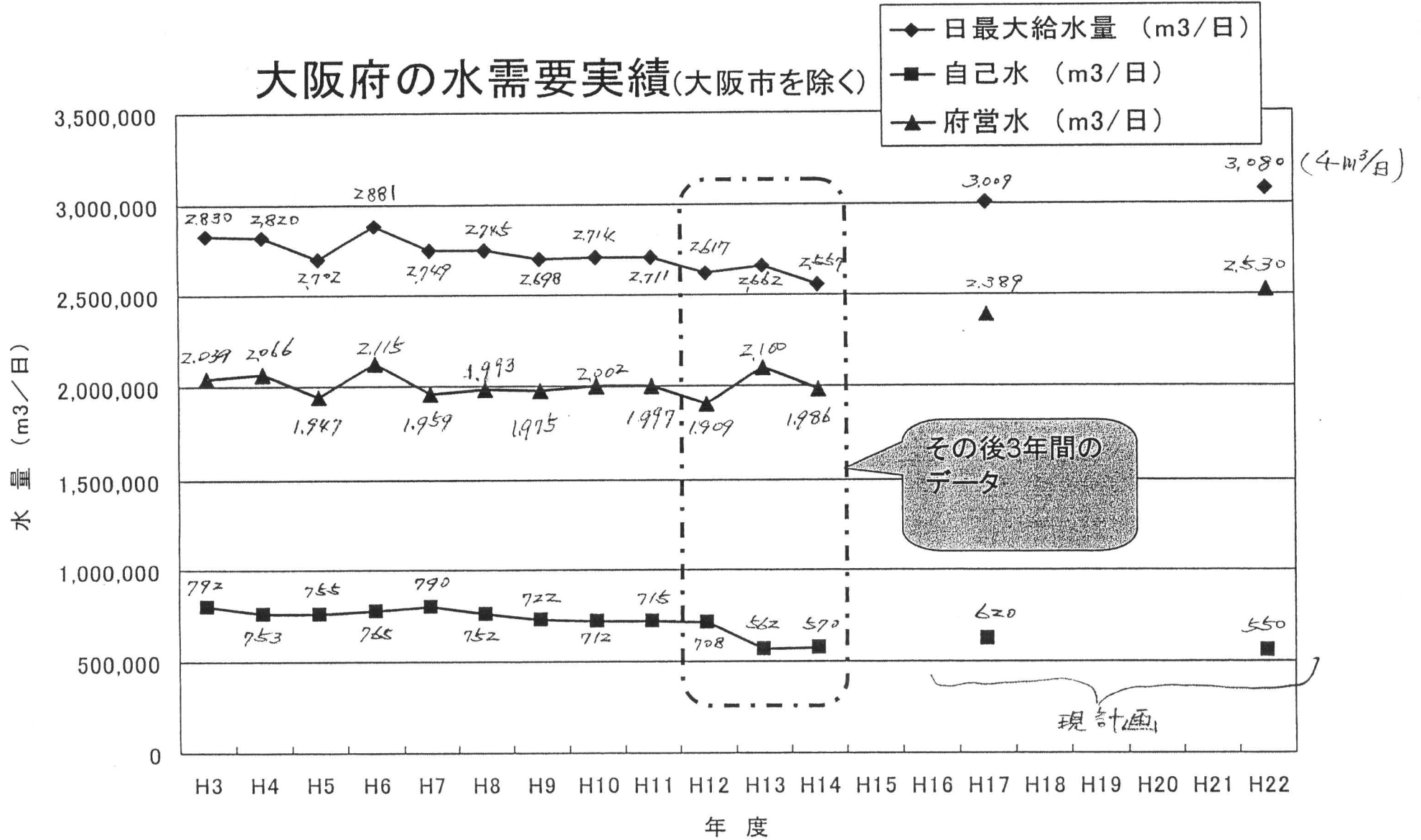
去る5月21日、大阪府水道部経営・事業等評価委員会第1回水需要部会が開催されました。大阪府外部監査委員会から現水資源計画（給水量ベース）253万 $m^3$ /日の見直し要求を受けて水需要部会が設置されたのです。

現在の大阪府見直し案は253万 $m^3$ /日はそのまま変更せず、既得水利権が210万 $m^3$ なので、府工水の転用11、大阪臨海工水の転用12、安威川7、紀の川13合計43万 $m^3$ /日の新規利水を確保しようとするものです。この案により丹生ダム、大戸川ダムから撤退しようとしていることはご存じの通りです。

しかし私は丹生ダム、大戸川ダムからの撤退はもちろん、大阪臨海の転用・安威川・紀の川は無用と考えます。府工水からの転用で大阪府営水道の給水能力は221万 $m^3$ /日となりますが、過去の水需要実績を見ると多くても210万 $m^3$ /日だったし、今後もそれを上回るとは思えないこと、万一これでは余裕が少なくて心配なら府工水をさらに転用すればよい（9万 $m^3$ /日は可能と思う）からです。ご参考用として、上記水需要部会の配布資料の内「大阪府の水需要実績」と、工業用水の「給水能力と水需要の変遷」のC O P Yを添付しておきます。

以上

# 大阪府の水需要実績(大阪市を除く)



452-2

## (2) 給水能力と水需要の変遷

府営工業用水道の給水能力は、昭和37年の給水開始後、受水企業の需要に対応するため順次拡大を図り、昭和45年には、現在の大庭浄水場と三島浄水場に庭窪浄水場をあわせて1,055,000 $\text{m}^3$ /日を有することとなり、契約水量も昭和47年には約80万 $\text{m}^3$ /日に達した。

その後、工業用水の需要は減少傾向を示してきたことから、昭和57年には三島浄水場の給水能力400,000 $\text{m}^3$ /日のうち200,000 $\text{m}^3$ /日相当施設を上水道に転用し、平成7年には庭窪浄水場系工業用水道施設を廃止して、現在の給水能力800,000 $\text{m}^3$ /日に至っている。

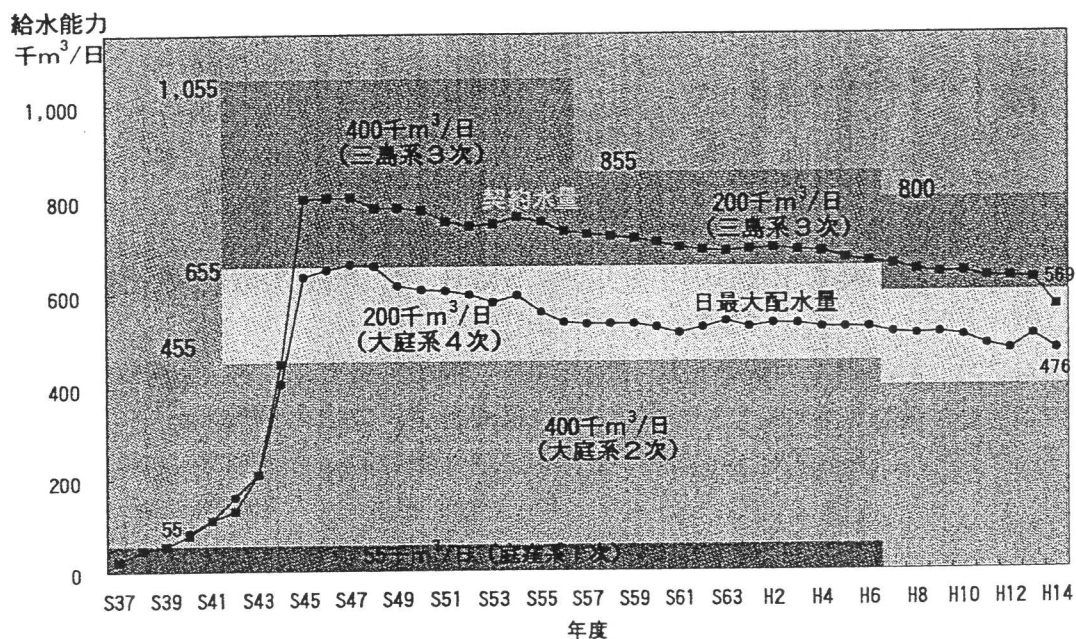


図2 給水能力と水需要の変遷